

アトリエ 琉游舎 だより 61号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2019年9月11日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

彼岸会法要

9月23日(月)10時半から

○彼岸会について

彼岸は悟りの世界。煩惱に満ちたこちらの岸（＝此岸）に対して極楽浄土の向こうの岸（＝彼岸）を表します。私たちは六波羅蜜の教えを実践する事により、彼岸へ渡ることができるかとされています。しかし凡人である私たちは、六波羅蜜の教えを毎日実行することは難しいことなので、せめて春と秋の年2回はその教えを実行する。これが現在のお彼岸法要の意味となっています。

ちなみに六波羅蜜とは彼岸へ到達（パラミータ）するための6つの実践徳目です。

- 1 布施**：施しをすること。 **2 持戒**：戒律を守り反省すること。 **3 忍辱**：不平不満を言わず耐え忍ぶこと。 **4 精進**：一所懸命努力すること。 **5 禪定**：心を静かに保つこと。 **6 智慧**：真実を見抜く智慧をもつこと。

- ★琉游舎はみんなに分かる法要を目指しています。小一時間ほど日常の空間を離れてみませんか？
- ★琉游舎の法要は事前に式次第をお配りして、式の進行と内容、所作の意味などの説明をしています。また終わった後に分かりやすく当日の法要の意義・内容を説明し、質問もお受けして答えるように心がけています。もちろん宗教宗派を問いません。すべての皆さんのための開かれた「場」です。

○琉游舎の活動は営利事業ではありませんので、お布施は一切お構いなきようよろしくお願い申し上げます。皆さんのお越しをお待ちしています。

詩話会

9月14日(土)
13時半から

読書会

9月24日(火)
13時半から

居酒屋の会

9月25日(水)
16時から

写経会

10月6日(日)
13時半から

映画会

毎週木曜日
13時半から

彼岸会法要

9月23日(月)10時半から

9/19 木	13時半	市民ケーン (119分)	オーソン・ウェールズ監督。時間軸を飛び越え、人々の証言によって富豪ケーンの人物像に迫る傑作。その手法の見事さと映像テクニクは傑作の一言に尽きる歴史的名作。
9/26 木	13時半	恋愛手帖 (108分)	ジンジャー・ロジャース、デニス・モーガン主演。働く女性の典型として描かれたキティーの二人の男性の間で揺れ動く女性心理を描いた恋愛映画、究極の傑作。
10/3 木	13時半	大いなる遺産 (118分)	デビッド・リーン監督、ジョン・ミルズ主演。文豪ディケンズの原作。主人公ピップが生き立ちから青年時代までを語っていく。
10/10 木	13時半	タイタニックの最期(98分)	バーバラ・スタンウィック、クリフトン・ウェブ主演。タイタニックの処女航海。スタージェスー一家は裕福であったが家族関係に亀裂が生じていた、そこに氷山が、、、
10/17 木	13時半	愛しのシバよ帰れ (96分)	バート・ランカスター主演。学生時代に知り合い妊娠が分かったため結婚を急いだ夫婦。しかし子供は死産だった。冷え切った二人の関係のもとにある少女が現れる。
10/24 木	13時半	我等の町(90分)	ウイリアム・ホールデン、マーサー・スコット主演。小さな町の幼なじみの男女の恋愛を軸に、人間にとって一番大切なものは何かを解き明かしていくヒューマンドラマ。

狂言綺語…善知識(生死不二)

今私には善知識と呼べる方がいます。以前この欄で書いたように注1「善知識」は「善き友、仏教の正しい道理を教え利益を与えて導いてくれる人」のことで、彼と知り合いになったのは今年の2月。有志3人と語らって始めたお助け合い組織「コリーナシップ」の活動の中のことで、彼は83歳、末期がんで闘病中。昨年の暮れまでは日常生活に支障のない程度に動けたのですが、がんが全身に転移し年末から急に右足の自由が利かなくなりました。足のしびれと痛みで支えられながら杖で歩くことがやっとの状態。症状を和らげるために放射線治療を受ける必要ができたのです。ついこの間まで可能だった運転ができなくなり、奥さんも免許がなく、お子さんもないようです。放射線治療を受ける病院は往復40キロ以上、3週間毎日治療に通わなければなりません。不便で時間を要する公共交通で行くことは困難で、タクシーは往復で15000円はかかります。年金生活者で身寄りのない老夫婦には肉体的、経済的負担が大変なことは言うまでもありません。

朝8時半に市営住宅の彼の住まいに迎えに行き、奥さんと二人で支えながら5段の階段を転ばないように下って車に乗せます。彼は助手席、奥さんは後部座席に。約40分で病院に到着です。車椅子で広い病院を放射線科まで移動し、9時半から治療が始まります。治療や会計に時間がかかっても、大概是10時15分くらいには病院を出て、また家に送り届けると11時くらい。今度は車から降りて5段の階段を支えながら昇り玄関の中に置かれた椅子に座らせるまでが「コリーナシップ」の付き添いサービスの内容です。15日間ほぼ毎日同じ日課です。そして往復の車中の後ろと前で交わされるやり取りもまた日課でした。やり取りというよりは言い合いです。ここに書くのも憚られますが、要約すれば奥さんの言い分は「お金と手間ばかりかかり、シルバーの仕事にも行けない、これでは生活ができなくなる。わがままばかり言って、苦勞させられる。早く死んでくれればいいのに」ということ。彼は何度か弁明と抵抗の言葉を試みますが、最終的には黙り込んでしまいます。私は互いから同意を求められても答えようもなく、ただただ聞いているしか術がありません。

3週間の治療を終えた後は薬をもらうために1か月に一回病院に付き添いました。症状は全く改善されず帰りにスーパーで買う食べ物も、おかゆや介護食の類に変わっていきました。そして5月のある日、下血が止まらないのですぐ病院に連れて行ってほしいとの連絡。そこから1週間の検査入院を経て退院するまでの間に、彼は全く歩けなくなっていました。車から自宅のベッドまでおんぶして送り届けました。医者からもう治療方法はないので在宅医を頼むか、最後まで過ごせる病院に転院するしかないと言われたのです。彼は家に戻る車中で「俺はついに医者から見放されてしまった」と呟きました。私は彼のケアマネージャーと話して在宅医療や看護の段取りを確認すると、もう物理的に出来ることは何もなくなっていました。

それから約3か月半、今では、彼はおかゆではなく白米を毎日食べています。食欲も回復し、基本的には何でも食べます。そして8月の終わりには床屋さんに行きたいというので付き添いをしました。その時「今度焼き肉を食べに行こう。ご馳走するから」と誘われました。この3か月間に彼と彼の奥さんに何があったのか具体的には私には分かりません。私が知っていることは、食欲も足も心も外出したいと思うまでに回復したということ、2週間に一回程度の奥さんの買い物に付き添う車中で、奥さんが彼の食べたがっているものを挙げては、今日はこれを買うのでどこそこに連れて行ってくださいと楽しそうに話すことだけです。帰りに寄ってしばらく3人で話している時に感じることは、車中の前と後ろで言い合っていたとげとげしさではなく、夫婦の間の感謝といたわりの和やかな空気です。彼のむくんでいた顔は今ではすっきりし、奥さんの顔からは陰が消えてなくなりました。ただ痛み止めの量だけは日々確実に増えているとのことです。

医者から見放された後と彼が呟いてから1週間後、奥さんから連絡があり「葬式の費用と方法について教えてほしい」と言われました。通夜も葬式もいらないがお経だけはあげてほしい、最小限の費用で済むようにしたい。そしてその内容を彼に直接話してほしいとの要望でした。これは私にとってはとても困難な命題です。何も心配しないで安らかにお休みください。あなたには極楽が待っています。などというごまかしは通じないはずですが、またそれを彼は望んではいないでしょう。私は知り合いの葬儀屋さんから、自宅で亡くなりそのまま火葬場で弔うまでの方法、法律的な問題と費用を詳しく聞きとり、その内容を二人の前で詳細に話しました。それは肉体の死を迎えた体の物理的処置と費用の話です。そしてもしあなたが亡くなるその時から火葬場に行き納骨するまで、許される限り私は一緒にいてお経を唱えてお見送りします。と付け加えました。この私の言葉が二人の今の安らかな毎日に影響しているとは到底思えませんが「戸井さんがずっと付き添ってくれるなら安心だね」との二人の言葉は有難いものでした。私は彼の「生死不二」に同行することを望まれ、許されたということだからです。そして二人はこの時から私の善知識となりました。

二人の今の穏やかな生活の理由を言葉で説明することは私にはできません。ただ一つだけ確かなことは二人は「死」の側から今あるありのままの「生」を観ることで「生死不二」を瞬時に信じる事が出来たということです。そして教えや導き手がいなくても、人は「信」を得ることが出来るということです。人はいずれ物理的な死を迎えます。彼のその日はいつになるか分かりませんが、二人は互いが必要とする善知識として心安らかな日々を送るでしょう。私はこれからも二人に同行し続けます。

琉游舎：戸井 出琉・恭子

そして二人は私に仏の道理を教え利益を与えお釈迦様のもと **お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152** へと導いてくれることでしょう。(出琉) 注1：琉游舎だより24号 矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850